

平成24年度

島牧村教育行政執行方針

島牧村教育委員会

平成 2 4 年度教育行政執行方針

平成 2 4 年第 1 回村議会定例会にあたり、教育委員会が所管する行政に係る主要な方針につきまして申し述べます。

未曾有の大災害といわれ、数多くの方々が犠牲となりました東日本大震災が発生してから 1 年を経過しようとしております。延々と続いた被害状況を新聞やテレビで知り、特に学校や児童・生徒などに関係する報道がなされるたびに沈痛な思いを感じておりましたが、改めて卒業式や入学式そして運動会や遠足などの学校行事が、普通に行われることがどれほど幸福なことなのかということを痛切に感じさせられた 1 年間でした。

また、情報化に伴う事故や事件に関しても、常に指導してきたつもりでございますが、昨年 1 0 月の本校の教諭による不祥事は、保護者や関係各位の信頼を裏切る不祥事であり、大変申し訳なく思っているところであります。絶対ということはありませんが、全てに関しての不祥事を無くすよう細心の注意を払い、児童・生徒が普通に学校に通学できることを喜び、安心して学校で学び、「生きる力」を育むことができるよう、教育が果たすべき役割の重要性をしっかりと捉え、なお一層努力を重ねて本年度の学校教育と生涯学習の施策の推進に努めてまいります。

第一は、学校教育についてであります。

昨年学力向上のための教員加配を申請し、道教育委員会の採択により 1 名の教員加配が小学校に確保されたところでございますが、学力・学習調査やチャレンジテスト等での無回答率が減少し、児童の困り感を察知し、すぐにきめ細やかにサポートすることができることから今年度も継続してまいります。

オーストラリアの方による外国語活動も 3 年目を迎え、今年度も同じ講師に来て頂くこととなり、講師の希望から保育所の園児達とも交流を持ちたいということから、保育所、小学校、中学校での外国語活動となります。また、生涯学習事業で小学 5 年生の国内視察研修で、東京の城東小学校との交流を実施してから 3 年目となっておりますが、東京に視察に行った時だけの交流ではなく、インターネットを活用した授業交流を進め、さらには外国語活動講師のオーストラリアの学校とも交流できるよう模索してまいりたいと思っております。

集中力と健やかな心を育成できると感じている書道や短歌・俳句の授業も教職員の理解と村内住民の方のご協力により 3 年目となりますが、書道に関しては書き初めを実施し島牧郵便局に展示したり、今年度の文化祭には習字の展示も何年かぶりで見ることもできるものと思っております。児童が書いた作文や教室に貼られている自己目標などを見ますと、緩やかではありますが書道効果は感じ取ることができます。また、俳句や短歌につきましても標語コンクールで入選しており、目的である語彙力の高まりに効果を上げており、「継続は力なり」を信じ、進めてまいりたいと思います。

中学校の新学習指導要領は今年度から完全実施となりますが、十分な準備期間を設け先行実施してきておりますので、何の不安もなく移行できるものと考えております。武道について本村は柔道を選択し、昨年度に畳を購入し準備を進めておりますが、新聞等で報道

されております「大外刈り」などの禁止など、その指導と安全に十分配慮しながら取り進めてまいります。

なお、前段で申し上げました小学校への教員加配が採択されことを期に、中学校では退職教員活用事業を導入し、中学生の数学の授業補助として、きめ細やかなサポートに努めております。

「道徳教育」につきましては、昨年改めて「道徳教育」の充実を申し上げたところでございますが、教員の不祥事が発生し、「道徳教育」の希薄化が顕著に表れたものと感じているところでございます。児童・生徒に限らず我々も含めて、教職員一丸となって今一度「道徳教育」の重要性を鑑み、認識を新たにして「道徳教育」の充実に向け、しっかりとした授業展開を図るよう努めてまいります。

健やかな体を育てるスポーツ活動や食に関しましては、スポーツ活動における環境整備と栄養教諭による効果的な食に関する年間指導計画の策定とその推進に努めます。

特別支援教育につきましては、支援を必要とする児童・生徒は年々増加する傾向にあると感じております。特別支援を含め、支援を要する児童・生徒は小学校・中学校だけではなく、保育所からの連携が不可欠であります。このため、小・中の校内体制の充実を図り、保育所から中学校卒業まで個別の特別支援計画等作成するなど、充実した支援体制の構築に努力してまいります。

学校給食につきましては、現在も大震災の影響や雪など自然災害による野菜類の高騰も続いており、大変気になるところではございますが、安全・安心な食材を提供することを心がけ、今後も栄養バランスを考慮しながら、美味しく子どもたちに楽しみと思われる給食の供給に努力してまいります。

寿都高校への教育振興対策としては、昨年の執行方針でアンケート調査を実施し、通学費助成率につきまして判断したいと申し上げましたが、その結果から50%の助成を判断させていただきました。アンケート調査結果からは当然のことながら、助成があるのであれ

ば多いほど良いというところは見受けられましたが、50%助成が半数以上を占めており、また助成することで寿都高校の存続が図られると、多くの保護者に理解していただいていることも、調査結果から判断できることから、各種資格試験等の受験料等負担軽減の支援と年間通学費の助成の支援を行ってまいります。なお、通学費助成に関わって今後の考え方としましては、50%助成が寿都高校存続という目的があるにせよ、色々な条件等を考慮しましても限度と考えているところであります。

第二は、生涯学習についてであります。

昨年は中学校で継続実施してまいりましたキャリア教育活動が文部科学省から表彰され、地域の方々の学校への惜しみない協力が長い間実践され、学校も創意工夫しながら他地域との連携の下、継続してきたことが評価されましたことは大変喜ばしいことであり、今後においても地域の協力を得ながら、小学校・中学校が要望する事業や各種行事・校外活動への支援・協力体制を積極的に図ってまいります。

人材育成事業につきましては、大きな事業は小学5年生の国内視察研修事業であります。中でも東京の城東小学校との交流が貴重な体験となっております。城東小学校の方でも、今後もこの交流事業を継続させたいと言っていることから、インターネットを利用した画像による交流を、視察研修までに取り進めることができればさらに充実した視察研修になるものと思っております。今後も事業の継続と事業財源であります「ふるさと創生基金」のより効率的かつ効果的な活用に努めてまいります。

文化・スポーツ活動につきましては、小学校では「北海道巡回小劇場」が採択の予定となっております。中学校については学校や生徒の希望を取り入れながら、さらなる文化や芸術鑑賞の浸透を目指

し、鑑賞機会が増えるよう努めてまいります。

スポーツ活動につきましては、その中心の場となり、また多くの村外からの利用者が訪れるスポーツセンタートイレの合併処理浄化槽整備を実施して利用者の利便性を高めてまいります。

千走地区山村広場につきましては、昨年第1回の「村民大運動会」を沢山の方々のご協力とご参加により、盛大に開催されましたことに心から感謝しております。「村民大運動会」が終了してから、色々なご意見も伺っております。また、開催するまでの各地域での小さなコミュニティづくりが、最後は大きなコミュニティづくりになるものと思っておりますし、地域が地域であるためには地域住民の皆さまがふれあい、交流しあうことでお互いを知ることができ、関心を持つことができることが大切であると考えております。生涯学習・社会教育の大きな目的であるコミュニティ創造の機会となる「村民大運動会」は今後も継続してまいりますので、さらなるご協力とご理解を賜りたいと思います。

以上、平成24年度の教育行政の主要な方針について申し上げます。

島牧の子どもたちの未来を信じ、島牧を担う子どもたちの育成が、豊かな島牧の地域づくりの基になると思い、世代を超えたふれあい・交流のできる場を提供していくことが「人は人を創り、人を育てる」ことに繋がると考え、このことを目標として努力してまいりますので、議会議員各位をはじめ、村民皆さまのご協力とご理解を心からお願い申し上げます。